

三木の祭り屋台 紹介リレー その3

市では、市制施行70周年記念事業として、10月26日に「三木の祭り屋台大集合」を開催します。ここでは、地域に代々伝わるお祭りで奉納されている「祭り屋台」の魅力と文化を守り育てる皆さんを紹介します。

問 (市)企画政策課 企画政策係

本号紹介の秋祭りスケジュール

- 八雲社(与呂木)
10月13日(日)、14日(月)
午前10時頃 宮入
- 八雲社(久留美)
10月13日(日)、14日(月)
午前10時頃 宮入
- 若宮八幡宮(宿原)
10月19日(土)(夜宮)
午後6時頃 宮入
10月20日(日)(昼宮)
午後6時頃 宮入



与呂木
(八雲社)

昭和2年に購入した屋根を平成17年以降、屋根や高欄掛、土露台などを改修し、あわせて水引幕や提灯、高欄掛を新調。担ぎ棒は与呂木にある「秀吉本陣跡」の山から町民が協力して切り出し製材しました。越中彫師「川原啓秀」作の三枚合わせの狭間彫刻や透かし彫りの雲板は大切に継承しています。

宵宮の見どころは、急な坂道を屋台蔵まで祇園囃子に合わせて、担いだま力強く進んでいく躍動感ある瞬間です。

今年三木の祭り屋台大集合が終わったあと、久留美屋台と与呂木屋台が揃って与呂木の坂道を上る10年に一度しか見られない瞬間に立ち会うことができます。



与呂木
区長 芝崎 英樹 さん
保存会会長 田中 保弘 さん



久留美
(八雲社)

万延元年に地元で製作された三段布団平屋根屋台で、いくたびの改修を重ね地元の誇りとして継承してきました。平成26年に布団屋根、飾り金物、担ぎ棒の改修を行い、屋台四隅の飾り房は古来の逸品として20年の時を経て復活しました。水引幕は「大阪夏の陣」、高欄掛は退治物、屋提灯は「雲龍阿咩」で淡路の梶内にて製作。

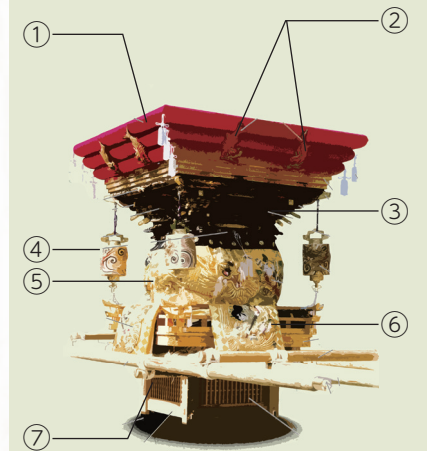
八雲社の例大祭では、久留美・与呂木の2基の屋台が奉納されます。宵宮には、屋台が太鼓を響かせ町内を巡り、宮入を終えると住民による夜店が催され、参拝者をもてなしてお祭りムードを盛り上げます。

久留美地区では、老若男女皆で祭りを楽しんでいます。

久留美自治会
区長 西森 茂樹 さん



屋台各部の名称



- ① 布団屋根
赤い布団の3段、反り屋根などの屋根がある
- ② 布団締め
布団屋根の四方に取り付けられた装飾
- ③ 狭間彫刻
屋台の四方を飾る彫刻
- ④ 屋提灯
絵柄や文字の刺繍の入った飾り提灯
- ⑤ 水引幕
四本柱の周りに巻く細長い幕
- ⑥ 高欄掛
豪華に装飾された四角の刺繍飾り
- ⑦ 長胴太鼓
通称「鳴り太鼓」。乗り子が叩く合図で屋台が動く

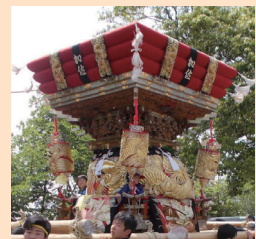
布団屋台

三木の祭り屋台は台座の上部に赤い布団を積み上げているのが特徴で、「タイコ」のほかに「布団屋台」とも呼ばれています。

布団屋台は瀬戸内海の沿岸一帯に広がっています。諸説ある中で、高田屋嘉兵衛らによる蝦夷(北海道)松前との交易など、江戸後期には瀬戸内での船の往来が活発になる中で、情報が交換され、まつりの形式が似通ってくるうちに、布団屋台が普及したと考えられています。

なぜ布団を乗せたのかは、「神さまが休めるように」など、さまざまな説がありますが、はっきりとしたルーツは分かっていません。

【参考】三木市観光協会 三木の祭 屋台・獅子舞・写真集



▲三段の平屋根(加佐東)



▲反り屋根(石野)



▲播磨町阿閑神社秋祭絵巻(1820(文政3)年)に描かれた、初期の布団屋台と思われる屋台。当時すでに祭礼に練りだしていた三木の布団屋台も近い姿であったと考えられている。



宿原
(若宮八幡宮)

明治30年から使用している古い屋台ですが、度々の修繕改修で美しさを保っています。

水引幕は白地に乙姫様が美しく描かれた浦島伝説。高欄掛は「源義経八艘飛び」「武蔵坊弁慶」「錨知盛(平知盛)」「平教経」の源平もの。狭間彫刻は彫師「柳甚平」作の歴史あるものです。

夜宮は、町内を巡行し神鉄恵比須駅から中央公民館まで岩壺神社奉納屋台6基と合同運行します。夕方には若宮八幡宮に宮入り。昼宮は若宮八幡宮にて子ども奉納相撲の後、町内を巡行しつつ岩壺神社へ宮入りし、同じ三木小学校区の岩壺神社屋台と交流を深めています。



宿原
区長 門 教善 さん